

目次

はじめに

1 労働者の自主的な団結としての労働組合 ————— 13

労働組合に「お墨つき」はいらない

法律は頼るものでなく活用するもの

会社の繁栄＝諸君の繁栄という思想攻撃

「労働者」と「従業員」との混同

労働組合は「労働者」の組織である

労働組合の主要な仕事とはなにか

労働力売買のための団体交渉と協定

5

目次

2 たたかいのなかで組織をつくろう ————— 29

生命を無視した生産増強と三池大震災

鶴見・三河島事故の責任を労働者に転嫁

資本家はなんとしても要求を抑えようとする

労働者は「要求」のもついで一つになる

合理化の中での生活・権利をまもる闘い

職場に労働組合をつくることが出発点

3 死んだ組合から生きた協約は生まれない ————— 43

労働協約はむずかしいものという考え方

賃金と労働条件を切り離してはならない

協約闘争の課題は、行と行との間にある

職場闘争こそ労働協約をつくる出発点

4 要求の発見と職場組織の点検 ————— 55

職場にはさまざまな要求が埋もれている
要求の掘り起しと生きた職場組織の確立
職場組織の仕組み・運営と点検活動
職場闘争の障害をとりのぞくために

5 どこから手をつけ、なにから始めるか

67

労働者がみずからの力を知ることが出発点
労働者の「本性」を信頼する作風
相手の弱い「環」に「眼」をつけよう
職場活動をすすめるための留意点

6 集会を成功させるために

79

荒けずりな「組合運営」に分裂の原因
上からの運動はあるが下からの運動がない
集会にあつまらない「原因」こそ問題
集会を成功させるための組織的な対策

7 賃金討議のすすめ方

91

大衆討議は自己改造の闘いでもある
要求づくりを通して労働者の自覚を
要求金額より確信の統一

「とれる要求」でなく「とるべき要求」
大切な下からの要求づくりと機関の指導性
大衆討議のなかで活動家が果たす役割
「職場集会」にたいする幾つかの留意点

8 幹部と組合員の結合強化

107

団結強化と組合民主主義の問題
組合民主主義は「手」ではない
幹部活動家を会議要員ではなく組織者に
一点突破の典型闘争を仕組む必要
指導の改善と幹部政策をもつこと

幹部活動家の「任務」と「役割」

9 職制対策と職場交渉のすすめ方

125

「職制対策」はいかにあるべきか

職場でおきたことは職場で解決

職場交渉を成功させるために

苦情処理と職場委員の主要な任務

10 団体交渉を成功させるために

143

団体交渉は「集団的お願い」ではない

企業の枠内にとじこめる資本の攻撃

正確な状況把握と系統的な準備を

隣りの会社のことをよくつかむこと

「なめられない体制」をどうしてつくるか

11 ストライキのとりくみ方

159

ストライキは労働組合の「集団作業」

目 次

ストライキ準備の第一の仕事・要求決定

団体交渉との結合とスローガンの役割

デモンストレーションとしてのスト投票

家族をふくめストに耐える体制づくりを

的確な状況把握と組織内外の教育宣伝

争議戦術は資本の打撃と効果を重点に

12 企業意識を克服する方法

177

「会社あつての組合」という考え方

企業意識は幹部のなかにもある

企業意識を支える三大支柱とはなにか

相手のことより自分たちのことが問題

営業報告書も攻撃する立場から利用

くり返し異った言葉と方法で教育宣伝

13 分裂している組合のたたかい方

193

14

闘争の自己批判と総括

分裂攻撃——それは資本の目的ではない
労使協調とアカ攻撃による前段工作
組織の弱点が大きいほど被害も大きい
「要求を通じての統一」こそ基本方針
統一をたたかいたった組合の教訓
「はだか統一」は御用組合への道
統一とは、たたかいである

211

15

労働組合内の政治活動

幾つかの組合で見たり聞いたりした話
階級政党と労働組合の任務と役割

227

異常な関係と内縁関係を断ち切ること
労働者と組合の統一を妨げる宗派主義
労働組合の独自性と民主的規律の確立